



幾原雄一東大教授が  
米国セラミックス学会より  
Robert B. Sosman Award を受賞

([http://ceramics.org/?award\\_winners=yuichi-ikuhara](http://ceramics.org/?award_winners=yuichi-ikuhara))

本年2015年10月4～8日に米国のオハイオ州コロンバス市で開催された材料科学と工学会議 (Materials Science & Technology 2015; MS&T2015) にて、東京大学大学院工学系研究科総合研究機構の幾原雄一教授が Robert B. Sosman Award を受賞し、授賞式および記念講演が行われた。本賞は、米国のセラミックス分野の黎明期に大きな貢献をなした Robert B. Sosman 博士の偉業を記念して、セラミックス基礎科学の分野で顕著な業績をあげた研究者に毎年授与される。本賞は、1973年よりはじまり、今回で42人目の受賞であるが、最初の受賞者は、セラミックス科学全体の基礎を確立した W. David Kingery 博士で、その後、主に米国の基礎科学分野の研究者が選ばれている ([http://ceramics.org/wp-content/uploads/2013/04/sosman\\_recipient\\_list\\_2015.pdf](http://ceramics.org/wp-content/uploads/2013/04/sosman_recipient_list_2015.pdf))。

今回の幾原教授の受賞は日本人としては初の受賞である。授賞式では、記念の盾とガラスのトロフィーを授与された。受賞を記念して “Grain Boundary Segregation, Vacancies and Properties in Oxide Ceramics” というタイトル

の記念講演を行い、これまで幾原教授が取り組んできた一連の粒界研究、電子顕微鏡研究が紹介された。講演会は約300名定員の部屋で行われたが、立ち見の聴講も多数見られ、非常に盛況であり、講演後の質疑応答も大変活発であった。また、本講演の前後には、Sosman Award シンポジウムが企画され、関連分野で世界各国から集まった本分野の著名研究者らが招待講演を行った。主な講演者は、Arthur Heuer (Case Western Reserve University), Suk-Joong L. Kang (KAIST), C.B. Carter (University of Connecticut), Michael Finnis (Imperial College London), Stephen Pennycook (National University of Singapore), Nigel Browning

(Pacific Northwest National Laboratory), Gerhard Dehm (Max-Planck-Institut), Wai-Yim Ching (University of Missouri-Kansas City), Masanori Kohyama (AIST), Wayne Kaplan (Technion - Israel Institute of Technology), Klaus van Benthem (University of California, Davis), Naoya Shibata (The University of Tokyo) であった。

(柴田直哉 連絡先：〒113-8656 東京都文京区弥生 2-11-16 (工学部9号館) 東京大学大学院工学系研究科総合研究機構 E-mail: shibata@sigma.t.u-tokyo.ac.jp) <http://interface.t.u-tokyo.ac.jp>

[2015年11月9日]

